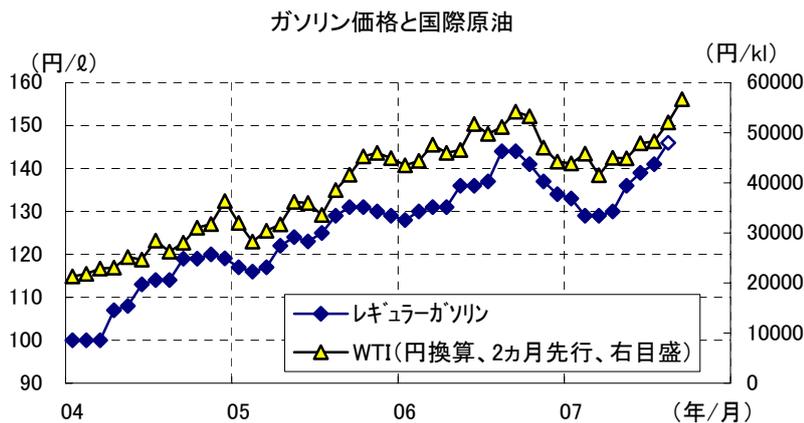


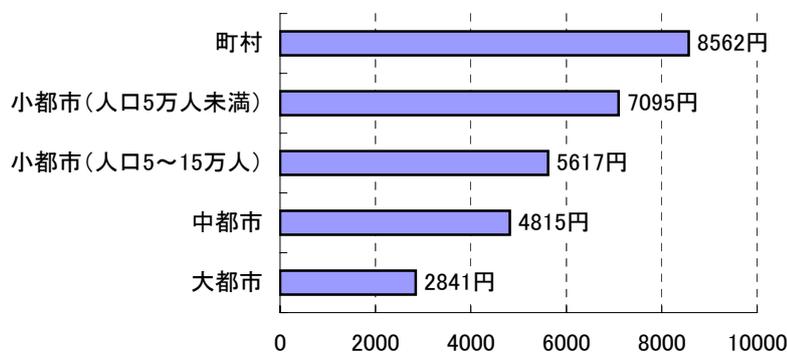
## 都市・町村間でバラつくガソリン価格高騰の影響

- (1) **今月内にもガソリン価格が各地で過去最高を更新する見込み。** 国際原油市況の動きをみても、少なくとも秋頃までは上昇傾向が続く見通し。ガソリン価格は、ここ数年、夏場に値上がりする一方、冬場に上昇が一服する傾向がみられるが、年平均価格でも、毎年10円前後の値上がりが続いている。
- (2) **ガソリン価格上昇が与えるマクロへの個人消費への影響は、以下のように限定的**で消費腰折れをもたらすとは考えにくい。最近の乗用車販売の低迷には一部影響している可能性。
  - ・家計全体に占めるガソリン支出の割合は、全世帯平均で2%にとどまっていること
  - ・家計の可処分所得は、雇用の増加により緩やかな増勢を保っていること
- (3) しかし、**地域別にみると、公共交通網の発達度合いに比例する形で小規模町村ほど負担が重い**傾向。1リットルあたり10円のガソリン価格上昇は、世帯平均で大都市では年間約2800円にとどまるのに対し、町村では8500円強にのぼる。
- (4) 先日の参院選では地方一人区での与党敗退が相次ぎ、現状の地方・都市間格差に対する不安の強さが示された形であるが、**ガソリン価格の高騰は地域間格差への注目を高める新たな材料となる可能性。**



(資料) 石油情報センター、日本経済新聞  
(注) 8月は見込み値。

ガソリン1ℓが10円値上がりした場合の年間負担増(世帯当たり)



(資料) 総務省「家計調査報告」から日本総合研究所試算 (円)  
(注) 大都市: 静岡市除く政令指定都市と東京都区部  
中都市: 大都市除く人口15万人以上の都市